

就農事例

山本高彰氏

調査日 令和2年3月(就農後6年目)

所在地 香川県高松市

経営主 山本高彰

主要事業 露地野菜、施設野菜

主要作目 ブロッコリー 240a
ニンニク 30a
アスパラガス 23a
麦 200a

就農タイプ 新規就農(兼業農家出身)

就農時期 平成26年

労働力 家族 2名(本人、妻)
臨時雇用 3名

ヒストリーあらすじ

・山本氏は、兼業農家出身で農業は身近な存在であった。学校を卒業後、野菜を扱う物流関係の仕事に就いていたが、野菜を扱いながら、栽培への興味が湧いてきた。

・実家周辺の農業の担い手が減少する中、祖父も高齢のため、所有の農地を守れなくなってきていた。そこで、野菜栽培への興味も高まっていたこともあり、地域の農地を活用し、野菜栽培で独立・自営就農することを思い立った。

・農業経験が、ほとんど無かったので、就農準備段階では、香川県立農業大学校で8カ月、先進農家で1年間、野菜栽培を学んだ。就農後は、アスパラガスの栽培技術を習得するため、週に1日1年間、先進農家で研修を積んだ。

・就農初年度は、実家の農地と周辺農家からの借地で、ブロッコリー120a、その他露地野菜17aの栽培をスタートさせた。

・当初は、ブロッコリーが上手く栽培できなかったが、土づくりに試行錯誤することで、現在は、安定生産が可能となった。

・制度資金、補助事業等を活用し、施設栽培(アスパラガス)を導入している。現在は、露地栽培面積470a、施設栽培面積23aの規模に拡大している。令和元年10月には、認定農業者になっている。

エッセンス

●研修

・農業大学校、先進農家で基本を学んだおかげで、就農後の経験や情報が自身の血となり肉になっていると実感している。

●農地

・農地は、人任せでは、集まってこない。自分で農地を探し、直接交渉することで農地を集めることができた。今では、声をかけてもらえるようになった。

●失敗

・失敗は忘れず、次に活かす。

●土づくり

・土づくりができていないと、良いものは作れない。手をかけただけ成果が返ってくる。

●仲間

・地域に同世代の仲間がいるので、栽培で困ったことや、分からないことがあったら、相談できる。互いに励みになる存在になっている。



山本高彰氏



高校生に経営概要を説明する山本氏



ブロッコリー作付け状況



山本氏のアスパラを見学する高校生

山本高彰氏 ヒストリー

就農前	就農期 平成26年～	確立期 平成30年～	発展・将来展望
<p>●他産業で勤務、農業に興味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を扱う物流関係の仕事に就いていた。野菜を扱いながら、農業への興味が湧いた。 ・実家が兼業農家で、農業は身近な存在であった。 ・実家周辺の農業の担い手が減少する中、祖父も高齢のため、所有の農地を守れなくなっていた。 <p>●妻の理解・協力が得られたので、自分自身が地域の担い手になることを決意！</p>	<p>●平成26年5月、独立・自営就農</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年3月、認定就農者に認定される。 ・実家の農地と周辺農家からの農地を借りて経営を始めた。 ・ブロッコリー120a、その他露地野菜17aの栽培に取り組む。 ・雇用なし。妻は農外勤務。 <p>●農地の確保に苦労した。自分で農地を探し、直接交渉することで集積することができた。その後は、向こうから声をかけられるようになった。</p> <p>●ブロッコリー栽培の土づくりに苦労した。試行錯誤しながら、どうにか安定生産できるようになった。</p>	<p>●規模拡大をすすめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、拡大していたブロッコリーの栽培面積が240aになる。 ・ハウス(アスパラガス)13aを新設する。 ・令和元年10月、認定農業者となる。 <p>●ハウス新設に際し、県補助事業、制度資金(青年等就農資金)を活用した。</p> <p>●経営も安定し、一人のできる規模を超えてきたので、妻が就農。雇用(臨時)も始める。</p>	<p>●さらなる高みを目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのブロッコリー、アスパラガス栽培に加え、ニンニク栽培に挑戦している。 ・労働力とのバランスを考えながら、規模拡大と経営安定を図っていきたい。 <p>●今後は、認定農業者のハードルを超えられるように努力していきたい。</p> <p>●当面は、現有労働力で可能な規模を見極めたいと考えている。</p>
<p>●独立・自営就農を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経験が、ほとんど無かったので、香川県立農業大学校(就農準備研修、H24Ⅲ期、H25Ⅰ期)で8カ月、先進農家で1年間、野菜栽培を学んだ。 <p>●野菜栽培の基礎を習得する。</p>	<p>●新品目の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス10aを新設する。新品目(アスパラガス)を導入する。 <p>●アスパラガス栽培を習得するため、先進農家で週に1日1年間、先進農家で研修を積む。</p> <p>●アスパラガス導入に際し、初期費用、ハウスの新設等について、県補助事業、制度資金(青年等就農資金)を活用した。</p>	<p>●販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA出荷だけでなく、量販店の産直コーナーへ出荷。 ・地元の飲食店にも出荷。 <p>●利益率を上げるためには、販路拡大が必要だと実感した。</p> <p>●さらに販路を開拓することで安定経営につなげたい。</p>	<p>●次世代へバトンを託すために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に信頼・必要とされる農業経営を目指していきたい。 ・永続的に営農できるよう、土づくりに注力すると共に、農作業安全や環境にも十分配慮していきたい。 ・家族等がいつも笑顔でいられる農業経営を確立したい。 <p>●経営基盤を確立し、子供が引き継ぎたいと思える農業経営を築いていきたい。</p> <p>●これから農業に取り組む方に、アドバイスできる農業者になりたい。</p>

山本高彰氏 <課題と対応策>

フェーズ		就農前	就農期 平成26年～	確立期 平成30年～	発展・将来展望
主な出来事		<ul style="list-style-type: none"> ●野菜を扱う仕事をしながら農業に興味 ●実家周辺の農業の担い手が減少 ●野菜栽培の研修開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●認定就農者になる ●実家の農地と周辺農家からの借入で就農 ●基幹品目はブロッコリーとアスパラガス ●妻は農外勤務 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハウスの増設 ●臨時雇用の導入、妻の就農 ●認定農業者になる 	<ul style="list-style-type: none"> ●新品目の導入 ●認定農業者の目標達成
経営課題	ヒト・組織	妻の理解・協力で就農準備	本人のみ(雇用なし) 認定就農者(平成26年3月)	本人+妻+臨時雇用3名 認定農業者(令和元年10月)	本人+妻+臨時雇用3名
	土地・設備	祖父の農地、トラクター等	農地は借入 ハウスの新設(10a)	農地の借入 ハウスの新設(13a)	農地の借入 当面は現状維持
	カネ	自己資金を蓄える	ハウス新設等資金の調達 県補助金、青年等就農資金他利用	ハウス増設等資金の調達 県補助金、青年等就農資金他利用	今後に備えて資金の確保
	技術・ノウハウ	県立農業大学校で8カ月、先進農業者で1年間の研修を積む	地元・先進農業者やJA部会等で情報収集 JA営農指導員、普及指導員からの指導	地元・先進農業者やJA部会等で情報収集 JA営農指導員、普及指導員からの指導	土づくりに手を抜かない
	販売・販路	JA主体の出荷を想定	JA主体の出荷	JA、量販店等への出荷	JA、量販店等への出荷や販路開拓
	情報	先進農業者、JA、高松市、普及センター	地元・先進農業者、JA部会、高松市、普及センター、インターネット	地元・先進農業者、JA部会、高松市、普及センター、インターネット	地域へ情報発信できる経営を目指す
	地域	高松市御厩地区 (実家周辺)	高松市御厩地区 (実家周辺)	高松市御厩地区 (実家周辺)	地域から信頼・必要とされるようになりたい
	具体的内容 (課題の内容)	・農業経験の不足	・農地の確保 ・アスパラガス栽培技術の向上	・販路拡大	・新品目の導入
対応策 (課題にどう対応したか)	・香川県立農業大学校(就農準備研修、H24 III期、H25 I期)で8カ月、先進農家で1年間、野菜栽培を学んだ。	・自分で農地を探し、直接交渉することで集積することができた。その後は、向こうから声をかけてもらえるようになった。 ・先進農業者で週に1日1年間、研修を積んだ。	・知人、友人、農業者他からの紹介で販路を拡大した。	・試作をしながら、作りやすさ、生産量、単価等から導入を検討する。	
外部環境		※	※	※	